

第1章 「教育に活用されている馬」

教育

馬を授業カリキュラムに取り入れた教育

学校法人 アミークス国際学園

小中学校の授業に馬と関わるプログラムを導入
子どもたちの可能性を広げる



活動の概要

学校法人アミークス国際学園によって運営される沖縄アミークスインターナショナル幼稚園・小学校・中学校（一貫教育）では、馬を授業カリキュラムに積極的に取り入れた教育を行っている。



校舎を望む風景（ホームページより）

アミークスにおける馬が関わる活動は、授業とクラブ活動で行われている。

指導は、インストラクター2名を中心に行われる。授業については、インストラクターの他教員も関わる形となっている。インストラクターは、乗馬に関する技術面の指導だけではなく、馬に関連する事柄（馬の生理学的な特徴など）についての教育も担当する。

馬は学校敷地内で飼養されており、児童生徒は学外に出ることなく、馬の関わる授業を受けることが可能である。

1. 授業方法および授業内容

幼稚園および小学校1～3年（計4学年）の体育授業の一環として行われる。

1回45分間の授業で、サッカーなどの他の種目とあわせて、順番に年間20回程度実施される。授業は1日2コマ行われ、1班（回）あたり8名で、ひき馬による乗馬を中心に行う。

本校は設立されてからの経過年数が少なく、まだ完成年度を迎えていないため、授業内容と授業対象学年は児童生徒の状況に合わせ適宜調整されている。平成25年までは、馬を用いた授業は小4～小6を対象に行われている。



開放的なグラウンド

2. クラブ活動

授業の他に、馬と関わる課外活動としてクラブ活動が行われている。この活動は「キッズクラブ」と位置づけられ、陶芸クラブ、絵画クラブ、染色

クラブ、馬術クラブ、ゴルフクラブ、空手クラブ、サッカークラブ、音楽クラブの8つのクラブが設けられている。

馬と関わる馬術クラブは、UMABU という名称で活動を行っている。

小学校1年生から6年生までを対象とするクラブで、2014年現在110名の児童が所属している。活動日は月曜日から金曜日の平日の放課後で、水曜日が休みとなっている。毎日の活動は20名で行われており、メンバーは全学年から選ばれ、異学年の児童と共に行われる。活動は原則として2名1組で行われる。指導は2名のインストラクターによって行われる。

中学生(2014年現在中学校1年生のみ、13名)は、小学生の人数が多く校内での乗馬ができないために、学校と協力関係にある県内うるま市にある美原乗馬クラブを利用できるようになっている。



教育で使われる馬場

UMABU における、指導内容は以下のとおりである。

- 1) 騎乗指導
- 2) 厩舎作業
- 3) 季節行事

クリスマス、ハロウィンなどに馬を登場さ

せるイベントを行う。

- 4) ポニーライダー検定の実施

- 5) 外乗の練習

- 6) 学外イベントへの参加

- ・学校と協力関係にある美原乗馬クラブ(沖縄県うるま市)で乗馬をする。

- ・沖縄こどもの国(沖縄県沖縄市)で行われる「ンマハラシー」に参加する。

- 7) カードの作成(おしりカードなど)

「おしりカード」は、児童生徒の意識を馬に向けさせ、興味を持つようにインストラクターが考案したカードゲーム。馬にコスチュームをつけたカードや、2つで1組になるカードなど、レアカードを作成し、児童の興味を維持し馬の活動に積極的に参加しやすくしている。集めている生徒は、600枚を超えるカードを既に集めている。

- 8) BBQの企画(UMABUが企画する)

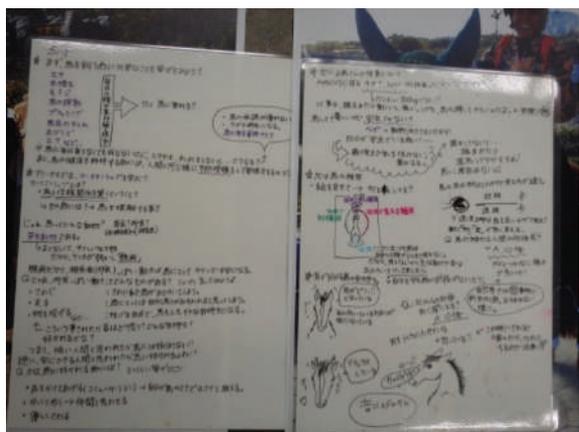
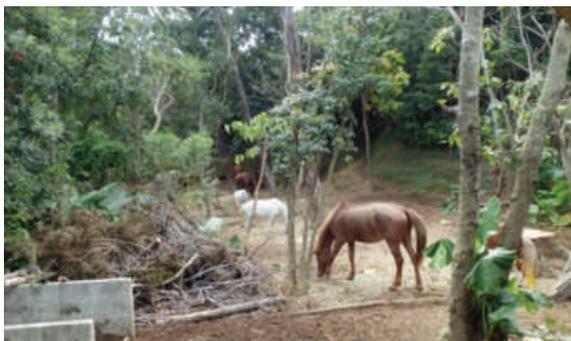
UMABU が企画するもので、子どもがホストとなって親(保護者)を学校に招き、馬に乗せるイベントを行う。

その他、陶芸クラブとのコラボレーションも行われている。



馬の手入れを通じて学ぶ

第1章 「教育に活用されている馬」



馬のことを基礎から考え、学ぶ生徒達のノート

活動体制

指導はインストラクター2名によって行われており、乗馬に関する技術面の指導だけでなく、馬への関わり方等についても教えている。

馬に関わる活動ができる施設として、厩舎（2棟）・放飼場・丸馬場・馬場が敷地内にある。

馬は学校敷地内で飼養されており、10頭（セン馬5頭・雌馬5頭）で、ポニー、北海道和種馬、ハフリンガーなどとの交雑種が含まれる。

馬の活動に関わるインストラクター以外のスタッフについては、小学校の卒業生（中学校の生徒）やプレスクールの外国人がボランティアとして、クラブ活動の手伝いをしてもらっている。一方、児童生徒のみを対象とし、地域の人には解放されていない。

インストラクターは、児童生徒が馬に興味を

持つように手作りのテキストを作成するなど工夫をし、教育に積極的に関わりを持っている。

施設の概要

2012年の沖縄科学技術大学院大学（沖縄県国頭郡恩納村）の設置にともなって多数の外国籍教員の赴任が見込まれることから、英語による教育を行なう私立学校の教育施設として、2010年5月にプレスクール、2011年4月に幼稚園および小学校が開校され、現在は学年進行に伴い中学校も開校されている。

本校の設立の背景には、1) 沖縄科学技術大学院大学の開校に伴う海外からの研究者や学生などの関係者子女を受け入れる学校が必要であること、2) 国際化の進む社会において、沖縄県に一条校としての国際教育機関となる時代の担い手を育成するための英語イマージョン校の整備が求められていたこと等がある。「考え、学び、行動する、自立した子どもを育てる」という教育理念のもとに、英語による授業が行われている。



教室の様子

沖縄アミークスインターナショナル幼稚園・小学校・中学校（学校法人アミークス国際学園）の設立経過、教職員数および生徒数、授業料、教育課程は以下の通りである。

○設立経過

2011年3月 学校法人アミックス国際学園設立

2011年4月 幼稚園開園・小学校開校

2014年4月 中学校開校

○教職員・生徒数

教職員数 87名（2014年5月1日現在）

全校数 513名（2014年5月1日現在）

○授業料

年間校納金（授業料・施設費・教材費・教育活動費・厚生費）

幼稚園 665,000JPY

小学校 819,000JPY

中学校 879,000JPY

○教育課程

幼稚園（1年教育 3クラス）

小学校（6年教育 3クラス/年）

中学校（3年教育 3クラス/年）

各学年は、イマージョンクラス（日本人を対象とするクラス、2クラス）とインターナショナルクラス（外国人を対象とするクラス、1クラス）に分けられ、いずれのクラスでも英語を中心とした教育が行われている。

文部科学省の定める一条校として、文科省の検定を経た教科書を使用した、他の国内にある一般の学校と同等の教育が行われる他、英語教員による英語の教材を用いた授業が並行して行われる。

原則として、小中一貫教育が行われており、入園および入学は、幼稚園または小学校1年生で行われる。中学校卒業後は、培った英語力を生かし、

国外の高等学校等への進学も視野に入れている。

背景（地域連携、展望等）

沖縄アミックスインターナショナルにおける馬を用いた教育は既に多くの人に特色のある教育として認知されており、入学志望の理由に「馬を使った授業等があること」とあげる保護者もいる。このことは、教育の特色を出すために馬が大きな役割を持っていることを示している。

馬を校内で飼養管理し、通常の授業カリキュラム内で馬を使用した授業を行っていることを保護者に理解してもらうために、学校説明会等で、参加者が積極的に曳き馬で乗馬してもらうなどの工夫を行っている。

沖縄アミックスインターナショナルは、文部科学省の定める一条校として、英語教育と馬を使った教育が特徴となっている学校である。馬に関わる職員は、積極的に授業を進行させ、児童生徒にとっても評判の良い授業および課外活動となっている。国内では、学校敷地内に馬を常時使用し、授業で馬を用いている学校は多くない。特に小中学校では他に例のないものであり、学校での馬の活用方法のひとつとして先進的な例として位置づけられる施設である。

〒904-2205 沖縄県うるま市字栄野比 1212-1
(URL) <http://www.amicus.ed.jp/>
(TEL) 098-953-2070